

《国語科》編集して伝えよう～「日本文化」のミニ雑誌～

紀の川市立 粉河中学校 第3学年

1 指導計画

本学年の生徒は、前年度図書館の図書を利用して「和食レポート」、「比較レポート」を作成している。また、1年次から調べ学習などを複数回行っている生徒達であるため、図書館の使い方も上手くなっている。今回は、「日本文化」について調べ、まとめてグループで一人一紙面を担当するミニ雑誌の作成を行うことにした。身近なテーマを設定することで、さらに興味をもって調べること、相手に伝わりやすいまとめ方を意識させることを目的とする。

● 情報のまとめ方とワークシート

(1) 情報カードを用いた情報収集

3学年の教科書の読み物教材『落語の秘密』から着想を得て、生徒達にとって身近ではあるが、知らない部分も多いであろう「日本文化」について、グループごとに雑誌を作成するという活動を行った。情報収集には、記録用の情報カードを用いたが、前年度も度々使用していたため、スムーズに情報収集を行うことができた。自分の書きたい記事に合う情報を見つけることには、慣れてきており、要点を簡潔にまとめられるようになってきている生徒もいる。

(2) ワークシート（テーマ設定の際使用したもの）

編集して伝えよう①「日本文化」のミニ雑誌
三年（組）（番）

☆「日本文化」について、調べまとめて一人一ページのミニ雑誌の紙面を書こう。

1, テーマを決めよう。

「日本文化」の中から、いくつかのテーマについて各班でミニ雑誌を作成します。

次の六つのテーマのどれを担当するかは、運次第。担当テーマについて調べて知識を深めよう。

① 音楽 (例: わらべ歌, 民謡, 和楽器/太鼓・笛など)

② 民話 (例: 昔話, 日本の怪談, 妖怪話, 神話など)

③ 衣食住 (例: 和服/着物・浴衣, 和食/和菓子, 日本家屋など)

④ 武術 (例: 剣道, 柔道, 空手, 相撲, 弓道など)

⑤ 芸術 (例: 書道, 華道, 茶道, 香道など)

⑥ 娯楽 (例: 囲碁, 将棋, アニメ, 漫画など)

2, テーマに合う内容(小テーマ)を探そう。

どのテーマを担当するかが決まったら、1の①～⑥のテーマに挙がっている(例)を参考に、自分たちの班のテーマに含まれる内容が書かれた本を図書館から探し集める。
【ヒント】各テーマの本のある場所を大まかに。他の場所も積極的に探してみよう！
前のトラックにも参考になる本があるかも？

① 7類, 9類, 音楽コーナー ② 3類, 9類

③ 5類, 7類, 手作りコーナー ④ 7類

⑤ 7類 ⑥ 7類, コミックコーナー

3, 何について調べるかを分担しよう。

各班の机に持ってきた本を小テーマごとに分け、班員で話し合っ、各自が分担する紙面を決める。(使用する本は、最低2冊以上)

(3) 記録用の情報カード（情報収集の際に使用したもの）

調べた内容	
書名	
著者・編者	ページ
出版社（発行所）	発行年 年

調べた内容	
書名	
著者・編者	ページ
出版社（発行所）	発行年 年

2 活用した本のリスト（一例／テーマ・日本の芸術）

- ・「染め物をつくる職人さん」有賀澄江 ポプラ社
- ・「古代の布を織ろう・染めよう」田部定信 リブリオ出版
- ・「ニッポン美術たんけん」高野義夫 日本図書センター
- ・「お香が好き」吉田楊子 ソフトバンククリエイティブ株式会社
- ・「香りを楽しもう」太田清史 NHK 趣味悠々
- ・「茶道・華道・書道の絵事典」江口克彦 PHP 研究所
- ・「筆で遊ぼう書道入門4」小峰紀雄 小峰書店

3 児童生徒の様子

今回は、情報カードを元に記事にまとめ、グループで雑誌を作成するという活動を行ったが、担当教員が記事の文例を提示したところ、かなりの生徒がそれに影響されることとなった。このことから、文例やヒントの提示のタイミングなど状況によって変えていくことも必要だと感じた。生徒が作成した記事についてであるが、実際の雑誌を紹介したこともあってか、読み手を意識した文章が書けている生徒も多かった。しかし、まとめの部分が弱かったり、収集した情報を活用しきれていなかったりする記事もあり、声かけの方法や内容についても改めて考えていかなければならないと考えている。

○成果と課題（今後の方向性等）

図書館を活用することは、情報を活用できる生徒を育てるためには欠かせないことである。現在は、情報メディアの発達も著しく、ともすればパソコンやスマートフォンで手軽に検索できるインターネットの利用のみで事足りると考えている生徒も少なくない印象である。しかし、インターネット上の情報は莫大かつ煩雑で、一見正しそうな情報にも裏付けがなかったり、曖昧で記事の書き手の主観が過分に含まれていたりするものも多い。そういったことも踏まえて、図書を用いた情報活用の仕方を考えていくことは、今後も必要不可欠であると考えます。

今回の実践では、「生徒が意欲的に図書と関われる」ようにすることが目的であったため、調べ学習であればそのテーマ設定において熟考した。情報のインプットとアウトプットという両側面はどちらも大切であり、今後も図書館と図書を自ら利用すると共に、学校全体で利用が進むように取り組んでいきたいと考える。そのためには、目的を明確にすることが重要であるということに今回の実践を通して改めて気付いた。これまで以上に事前の準備を怠らず、自分自身が図書館活用のための情報収集を行っていききたい。